

研究所だより

第419号
2020年 9月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
めかくし鬼さん 手のなる方へ
すましたお耳に かすかにしみた
よんでる口笛 もずの声
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた”



『ちいさい秋みつけた』 1955(昭和30)年 童謡・抒情歌

～2学期スタート～



「8月の平均気温は戦後最高、記録的な小雨」と気象庁による発表がありました。7月は、梅雨前線の停滞や一連の豪雨の影響で統計を始めてから最も降水量が多く、日照時間が最も少ない月となりました。活発な前線の影響で、7月を通して断続的に河川の氾濫や土砂災害などが発生し、甚大な被害をもたらしました。8月に入ると一転して、強い日差しが照りつけ、記録的な暑さに見舞われました。台風も次々に発生し(6個3号～9号)、そのうち4、5、8号は沖縄付近を進み、沖縄に荒れた天気をもたらしました。9月も台風等の自然災害が予測されますので、各校におかれましては「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。

新型コロナウイルスの影響で例年より短い夏休み、早い2学期のスタートとなりました。子どもたちにとっては短い夏季休業でしたが、短いなりに貴重な体験をしてきたことと思います。

2学期は、運動会をはじめ行事の多い学期ですが、これらの行事も新型コロナウイルスの影響で見直しを余儀なくされていると思います。それでも行事を通して地域の皆様と関わりを深めることができる学期でもあります。熱中症や感染予防等に留意しながら地域と連携し、実りの多い2学期であって欲しいと思います。

学級を予防的に見る 特別編

(教育ジャーナル2020年 Vol 3) から

村上仁志 教諭 (大阪市立みどり小学校)

<学校再開以降を振り返る>

時間に余裕のできる夏季休業期間に、新年度スタートから今までを振り返ってみよう、そんな企画のはずでした。今年は夏休みが短くなって、だいぶ事情は違いますが、今年なりに今までを振り返ってみましょう。

心配しすぎ? 緩みすぎ?

7月上旬には、ほとんどの学校が分散登校から一斉登校へ移行し、子どもたちが毎日学校へ通うという日常が戻ってきています。

もちろん、以前のおりというわけにはいきません。できる限りの感染症対策を講じつつ、学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、最大限、子どもたちの健やかな学びを保障しなければなりません。

右記の図のように、感染症対策と学びの保障の両立が求められているわけですが、両立する際の「落としどころ」が難しい場合も出てきます。

感染症対策

と

学びの保障

を両立

・3つの密を避ける

当面は実施しない

- 合唱
- 実験・観察
- 調理実習
- 共同制作
- 近距离で組む運動

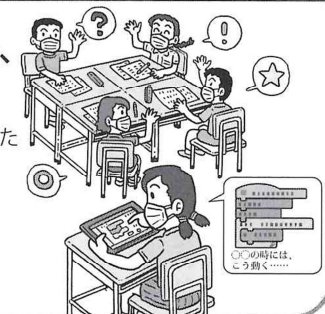


学校でしかできない学習活動に重点化

○関わり合い、協働学習

一人では気づけなかった考え方に気づく

○実習等



一部には、感染防止策が厳しすぎて、「学校が楽しくない」「話ができないから、友達もできない」という状況になっている学校があるようです。

その一方で、授業準備や事務作業などで子どもたちから目が離れている間に、子どもたちが近づきすぎたり、身体接触の多い遊びをしてしまったりという例もあります。

本稿執筆時には、学校関係者や児童生徒の感染報告が続き、萩生田文部科学大臣が記者会見の場で、「学校現場での感染拡大を防ぐために取り組んでほしい」とのコメントを出すなど、少し引き締める必要があるという考え方が優勢なようです。

ただし、「引き締める」ときには、注意が必要です。長期休業期間の生活リズムの乱れや心身の不安定さもあり、以前であれば適度と思われる指導が、現在の子供たちには、「非常に厳しい指導」と感じられ、登校しぶりなどにつながってしまう心配があるようです。

だからといって曖昧な指導をしてしまうと、今度は学習規律の乱れにつながります。

そろそろ問題が出てくる時期?

先生方にとって、学校に子どもたちがいるという状況は、大きな活力源になるようで、学校再開で職員室の雰囲気明るくなったという声をよく耳にします。

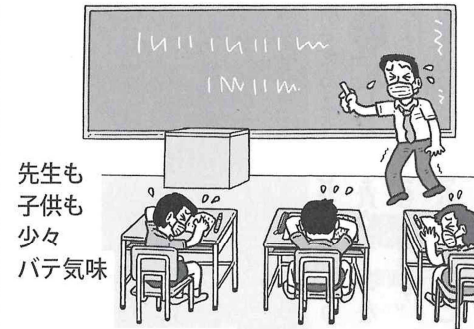
そんな状況で、つついふだん以上に力を入れて授業する先生。それに応える子どもたち。双方の頑張りが相まって、ハイペースで授業が進んでいったところもあるようです。

しかし、緊張感は長く続かないもの。疲れが蓄積され、緊張感が薄れ、だらけてきたり、問題が出始めたりしていませんか。

また、先生は頑張り続けることができても、子どもたちはそうでない場合もあります。長時間座ってられない子、授業への興味を失ってしまう子等、様々な面で子どもたちが「ついていけない」というシグナルを出していないでしょうか。感染防止などチェック事項が増え、緊張感が高くなりがちですが、こまめな深呼吸等で緊張感をほぐし、子どもたちの様子を見る場面を意識的に増やしましょう。

再開時の頑張りの反動?

・最初にペースを上げすぎた疲れが……



・進捗優先で……



特別支援教育コーディネーター連絡協議会（あすなろネットワーク）☆

今年、1年の中で一番暑い時期に授業を行わなければなりません。それに合わせてエアコンの設置など2020年度第2種特別支援教育多しまようですが、連携協議会への活用など、暑さ対策と感染防止に兼ねるための難しい場面も出てきそうです。

文部科学省は「西都府教育事務所」に依頼して「個別の指導計画の作成を支援するシート」の作成を依頼し、研修の行なわれます。（ただし、他の可能な対策を施す）としていますので、まずは熱中症防止のための事前対策が重要で、夏休み明けの7月、文部科学省及び厚生労働省による家庭と教育と福祉の連携下校時間はソメイの中でも気温が高めな地域となり、暑さ対策が重要で、支援を受けるための準備や準備が完了した段階で、特別支援学校及び自然中・義務教育学校特別支援学級に在籍する児童生徒、さらには特別支援学校、高等学校、大学、短大による指導を実施する関係機関が薄く、個別の支援計画の作成を通じて、本人、保護者の意向を踏まえつつ、関係機関と連携し、個別の指導計画の作成が義務付けられました。」（法的義務）についてと「個別の指導計画、個別の教育支援計画、引き継ぎシート」の目的や作成の仕方等を資料を基に詳しく説明していただきました。そして医療従事者等に対して、偏見や差別が発生しましたが、学校において、同様のいじめや差別、偏見が起らないようにしなければなりません。

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

「個別の指導計画」自分か感染したときに、言われたら傷つくようなことは人に言わない」

第20年度第2種特別支援教育多しまよう清水市教育研究集会・一日教研（部会研修）☆

本年度は日新型に第2種特別支援教育多しまよう清水市教育研究集会・一日教研（部会研修）☆

協議では、(国語部会)向上に向けて各校での取組部会、(2)今後の学力(算数)に教養部会について、



(2) 今後の理科部会に向けた取組について [図工部会]

[体育部会]



につながる研究をしている。疑問を持つことなく授業が進むのではなく、主体的に考えようとする授業づくりを(養護部会)



○理論的に発表したり、記述したりするちからを授業の中で育成していく。

※詳細については、教育委員会から



真夏の授業は

- ・ エアコンつけても窓を開けて換気
- ・ 教育課程の指導と、偏見を防ぐ。
- ・ 本人や保護者の思いや願いを可能な限り取り入れる。
- ・ 保護者と一緒に作成するのが理想。

校内支援体制づくりガイドブック

高知県教育委員会作成

感染者が悪者であるような印象を

人権教育部会

教育相談部会

※詳細については、教育委員会から

